

量子スピントロニクスセミナー

(初学者向け講義)

スピントロニクス

- 基礎から最近の話題まで

鈴木 義茂 先生 情報通信研究機構
/大阪大学(招聘教授)



(概要)

1988年に巨大磁気抵抗効果が発見されたことに端を発するスピントロニクスはスピン注入磁化反転、スピンホール効果の発見とともに進歩し、現在では固体の磁気RAM(MRAM)が実用化されるに至った。その後も進歩は止まらず、現在では量子幾何やトポロジカル超伝導、人工知能などとの関連が話題になっている。本講義は“スピントロニクスは特殊な専門用語が多くて近寄りにくい”と感じている他分野の研究者、これからスピントロニクスを始める初学者の方に基礎から応用までをコンパクトにお届けする。

参考書:「スピントロニクス」鈴木義茂他著、共立出版

(日時)

1/13 (火) スピントロニクス—基礎から最近の話題まで I
15:10-16:40

1/14 (水) スピントロニクス—基礎から最近の話題まで II
10:40-12:10

(場所) AIMR本館・2階セミナールーム

世話人: 水上成美

shigemi.mizukami.a7@tohoku.ac.jp